

平成31年度 小平市立上宿小学校 学校評価計画表

学校教育目標 ◎やさしい子(豊かな人間性) かしこい子(確かな学力) がんばる子(たくましさ) じょうぶな子(健康・体力)

目指す学校像(ビジョン)
 【目指す学校像】・生きる力を育み、人間の健全なる成長を促す場 ・小学校はその基礎・基本を身に付ける場 ・自分の「居場所」を共に創り合い、共尊感情を高める学校づくりを行う。
 【目指す児童・生徒像】・逆境にも負けない強くたくましい子 ・相手の立場を考え、心を通わせ、互いに支え合う子 ・よく考え、意欲的に学習に取り組む子
 【目指す教師像】・児童の自立を重んじ、愛情をもちながら、心のかもった指導ができる教師
 ・わかる楽しい授業を目指し、授業を通して児童・保護者の信頼を得るということを認識し、絶えず授業の工夫・改善に努める教師

前年度までの学校経営上の成果と課題
 ○お互いのよさを認め合うことのできる児童の育成 ○保護者や地域との連携強化
 ▲次期学習指導要領の理解と授業改善 ▲基礎学力の向上 ▲特別な支援を必要とする児童への指導

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	努力目標(評価基準)	成果目標(評価基準)
次期学習指導要領に対応した取組	次期学習指導要領の趣旨を尊重し、授業改善に努め、指導法の工夫と評価の視点を明確化する。	主体的で対話的な深い学びの形を構築させ、授業改善に努める。	次期学習指導要領の主旨を理解し、実践させるため、プチ研修で定着を図り、主任教諭による模範授業を行い、教員が相互に見合う授業も計画する。	4 教職員の自己評価で、肯定的回答が90%以上 3 教職員の自己評価で、肯定的回答が70%以上90%未満 2 教職員の自己評価で、肯定的回答が50%以上70%未満 1 教職員の自己評価で、肯定的回答が50%未満	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 児童の自己評価で、満足度80%以上 2 児童の自己評価で、満足度70%以上 1 児童の自己評価で、満足度70%未満
		外国語及び外国語活動の充実と外国語におけるコミュニケーション能力を高めさせる。	外国語におけるコミュニケーション能力を高めるために、校内研究のテーマに位置付け、研修会を4回開き、研究授業を3回行う。	4 教職員の自己評価で、肯定的回答が90%以上 3 教職員の自己評価で、肯定的回答が70%以上90%未満 2 教職員の自己評価で、肯定的回答が50%以上70%未満 1 教職員の自己評価で、肯定的回答が50%未満	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 児童の自己評価で、満足度80%以上 2 児童の自己評価で、満足度70%以上 1 児童の自己評価で、満足度70%未満
学力向上	特別支援教育の視点を生かし、どの子にもわかる授業を心掛け、学習に対する児童の意欲を高めるとともに学力の向上を図る。	習熟度の差を縮め、児童全員の学力を向上させる。	最低週に1回東京ベーシックドリルを活用し、習熟度別指導の時間や個別指導の時間をとり、積極的に学力向上を図る。	4 習熟度別指導か個別指導を1週間に3回以上(平均) 3 習熟度別指導か個別指導を1週間に2回以上(平均) 2 習熟度別指導か個別指導を1週間に1回以上(平均) 1 習熟度別指導か個別指導を実施しなかった	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 児童の自己評価で、満足度80%以上 2 児童の自己評価で、満足度70%以上 1 児童の自己評価で、満足度70%未満
健全育成	いじめ・不登校のない学校づくりを推進する。「いじめゼロを目指した豊かな人間関係作り」「自分の居場所を創り合う(自分もみんなも大切ー共尊感情を高める)」	自他を大切にすることを育て、人権意識に基づいた規範意識を高めるとともに、基本的な生活習慣を身に付けさせる。	学年・学級のルールを定着させ、いじめ・不登校の発生を防ぐために、未然予防の取組を行う。	4 教職員の自己評価で、肯定的回答が90%以上 3 教職員の自己評価で、肯定的回答が70%以上90%未満 2 教職員の自己評価で、肯定的回答が50%以上70%未満 1 教職員の自己評価で、肯定的回答が50%未満	4 保護者アンケートによる肯定的な回答が80%以上 3 保護者アンケートによる肯定的な回答が70%以上 2 保護者アンケートによる肯定的な回答が60%以上 1 保護者アンケートによる肯定的な回答が60%未満
		意図的・計画的に運動に継続して取り組む習慣を身に付けさせる。	小平共通プログラムにおける体力向上・健康づくりを行う。	「楽しみながら運動プログラム」による運動の日常化や「挑戦カード」の活用(年間)を図る。	4 活用した回数が10回以上 3 活用した回数が7回以上 2 活用した回数が5回以上 1 活用した回数が3回以下
体力向上		オリンピック・パラリンピック教育を推進し、オリンピアンまたはパラリンピアンへの派遣事業の実施を行う。	オリンピック・パラリンピックについての理解を深め、生涯にわたる体力向上への意欲化を図るための授業を実施する。	4 実施回数年間5回以上実施 3 実施回数年間3回以上実施 2 実施回数年間1回以上実施 1 実施回数年間0回	4 保護者アンケートによる肯定的な回答が80%以上 3 保護者アンケートによる肯定的な回答が70%以上 2 保護者アンケートによる肯定的な回答が60%以上 1 保護者アンケートによる肯定的な回答が60%未満
		小中連携や地域住民の協力により、一層の教育活動の充実を図る。	ゲストティーチャーや地域素材の教材化などを積極的に計画し、保護者や地域と連携した教育活動を展開する。	保護者や地域の教育力を活かした教育活動を展開する。(各学年年間3回以上)	4 年間5回以上実施 3 年間3回以上実施 2 年間1回以上実施 1 実施せず
地域に根ざした教育		近隣地域の幼・保・小・中・高・大などとの連携による幼児・児童・生徒・教員との交流と学び合いを行う。	幼稚園や保育園、近隣の小学校、中学校、高校、大学と連携した教育活動や交流会を1回以上行う。	4 3回以上実施 3 2回以上実施 2 1回以上実施 1 実施せず	4 児童の自己評価で、満足度90%以上 3 児童の自己評価で、満足度80%以上 2 児童の自己評価で、満足度70%以上 1 児童の自己評価で、満足度70%未満
		仕事の多忙感をなくし、すべての教職員がいそいそと子どもたちと接することができるようにする。	教職員間の役割分担を明確にし、業務の削減・効率化を図る。引き継ぎ等については、文書でしっかり残し、円滑に移行できるようにする。	高学年の分掌負担を減らしたり、積極的にスクールサポートスタッフを活用したりする。データ上での文書の管理を推進し、仕事の移行を円滑に行う。	4 教職員の自己評価で、肯定的回答が90%以上 3 教職員の自己評価で、肯定的回答が70%以上90%未満 2 教職員の自己評価で、肯定的回答が50%以上70%未満 1 教職員の自己評価で、肯定的回答が50%未満
働き方改革					